

第61回日本児童青年精神医学会総会が来る2020年10月22日から10月24日まで、盛大に開催されますことは誠に喜ばしく、心からお祝い申し上げます。

日本児童青年精神医学会におかれしては、日頃より児童青年のこころの問題と精神保健に専門的な立場から真摯に取り組み、学術研究・普及啓発を推進され、子どもたちの精神医療の充実に多大なるご貢献を賜っておりますことに深く敬意と感謝の意を表する次第でございます。

2020年は、あの阪神・淡路大震災から25年という節目の年を迎えます。神戸は、今日まで内外からの温かい励ましに支えていただきながら、復興の歩みを進めていくことができました。時代が変わっても、私たちは、震災から得た経験や教訓を風化させず、次の世代に引き継いでいかなければなりません。震災を経験していない市民が増えていくなかで、震災から得た経験や教訓を風化させることなく、いかに次の世代に継承していくか、という課題に引き続き取り組んでおります。

また、今年は新型コロナウイルス感染症がパンデミックとなり、全世界で日常生活は麻痺、停滞し、子どもたちも大人も不安と恐怖の中にいます。これからの世界を支えていく子どものいのちとこころの成長、生きていくことをまもり、育ちを支えるために、私たちは何をすべきなのか、これからも長く続く戦いが始まっています。

こういった情勢の中、第61回日本児童青年精神医学会総会が「児童青年精神医学のこれから-『生きる』をまもり『育ち』を支えること-」をテーマに開催されますことは、時宜に適い誠に意義深く、その成果に大きな期待を寄せております。

会員の皆様、参加される当事者・関係団体の皆様には、本会を契機にさらに研究、交流を深め、こどもたち現在と未来の発展に一層のご尽力をいただきますようお願い申し上げます。

本来であれば、1000名以上の先生方に、神戸にお越しいただくはずでしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止及び健康と安全のため、WEB開催になりました。新しい試みに、開催までには大変なご苦勞もあったかと存じますが、大会成果の情報発信等で非常に強いインパクトになると考えます。

最後になりましたが、今回のこの総会が実り多い、有意義なものとなりますことを祈念申し上げて、歓迎の意を込めたごあいさつにさせていただきます。

2020年10月24日
神戸市長 久元 喜造